

談話室

アメリカにおける Conference の運営について

— SCSC を例として* —

内海 武士

私は 1969 年、SCSC の前身の conference で、石油精製、石油化学、化学工業全般にわたる分野の session chairman を勤めるとともに“Stone & Webster All Purpose Simulator and Optimizer (SWA-PSO)”を発表し、また simulation language と computer simulation の将来について panelist として discussion を行なったため、1970 年度の conference の Program Chairman にさせられてしまった。私としては、1970 SCSC の Technical Program Chairmen の仕事は once in a life (人生にたった一度) の学界への奉仕のつもり引き受けたのだが、次いで 1971 年の SCSC の General Chairman に任ぜられてしまった。

1968 年から session chairman, Program chairman, General Chairman として勤めると、一応アメリカでの conference の運営の仕方について経験を得ることになる。日本での経験がないから比較することはできないが、以下に若干その経験を述べて日本人々への資とする。

まず、アメリカで学会の役員などで仕事をするとき、勤務する会社はその仕事に要した時間、電話、通信、copy 代などの費用は会社が学会への寄付として、税金の対象とならないようにする。また、準備会などに集まる旅費なども会社または大学もちで、学会もちではない。SCSC はまだ誕生してまもない新しい学会であるので、共催学会からそれぞれ \$600 を集め、Advanced and Final Programs の印刷、配布、Publicity、Registration などの運営費用とする (Proceedings の印刷費用など多額のもの conference のあと払いとする)。さらに、アメリカで conference を開催するとき、多く hotel で催されるが、会場費はほとんどタダであり、また 50 人または 100 人の宿泊者について、1 個の部屋がおまけとして提供される

ほどである。こころみに 1970 SCSC に要した費用の概略は次のようなものである。

I. Conference Income (約 360 人出席)	= \$ 18,000
II. Conference Expenses	
1. Printing of stationary, advanced and final program, and circulation	= \$ 2,900
2. Printing of proceedings	= \$ 8,500
3. Hotel 費用 (300 人の会食, その他)	= \$ 2,200
4. Rental of projector, screen, etc	= \$ 1,000
5. Publicity	= \$ 700
6. Registration (人件費, パッジ, 電話代など)	= \$ 700
7. 人件費	= \$ 100
Total	= \$ 16,200
差引残高	\$ 1,800

この残高は共催の society に平均に分配され、また、proceedings のあまりは conference 終了後にも販売され、この収入もまた共催した society に分配される。よって 1969 年と 1970 年 2 回の conference を共催したそれぞれの society は \$1,200 の運営費を貸付け、全額払戻しを受けたのちに、さらに \$5,000 の収入をあげている。

次に、アメリカで conference を運営するにあたって、やはり英語、タイプ、そして Xerox などの使用による効率のよさ、また、それぞれのオフィスや自宅できえからも 24 時間中手紙を dictation でき、2~3 時間後または翌朝出勤すると直ちにサインするだけでよい手紙ができ上がっているなど、さらに、アメリカ中いつでも電話で、それも時には party-line といって Houston, San Francisco, Chicago にいる人々と同時に会話できる system などをフルに使用することによって、きわめてスムーズに運営することができる。

まず General Chairman が任命されると、彼は Program Chairman を任命し、この 2 人で conference の時と所を定める。次に General Chairman はほかの Administrative Chairman を、Program Chairman は Group Chairman を任命し、さらに Group Chairman は Session Chairman を任命する。Administrative Chairman の多くが大学関係より会社関係から

* SCSC については、本号資料“1971 Summer Computer Simulation Conference について”を参照のこと。

選ばれるのは、上述のように彼らの運動費の多半は会社もちとなり、会議の費用を軽減できるからでもある。

すべての officer の任命が終わったころ “Call for Paper” の印刷が仕上がり、Session Chairman に多量に分配され、Session Chairman はまた知る限りの人々に配布して Abstract を集め、採用すべき論文の選定にかかる。この間、Publicity Chairman も数多くの学術雑誌に通知するとともに、Printing and Mailing Chairman も computerized mailing list を用いて “Call for Paper” の配布に努める。Abstract の締切りと同時に、Program Chairman は、それぞれの Session Chairman が採用した論文の数に基づいて conference のスケジュールをつくり、Printing Chairman は Advanced Program の印刷にかかる。仕上がった Advanced Program は “Call for Paper” と同様に、Session Chairman, computerized mailing list, そして共催学会の list などにより配布される。Program Chairman は同じころ “Model Paper Kit” と称する原稿用紙と typing や図表作製の instruction, いかにか効果よく論文発表ができるかの instruction, などを採用された論文発表者に配布する。この原稿用紙に type された論文は Session and Group Chairman を通じて Program Chairman に集約され、また、edit される。Edit されたすべての論文は印刷所に送られ、そのまま写真版をとり Proceedings になる。ここでも英文タイプがいかにか日本語にくらべて効率よいものが発揮される。

この Proceedings の印刷が始まるころ、Advanced Program に含まれた advanced registration form が返却され、conference 出席者の予測がかなり確実にたてられ、hotel との会食数や宿泊部屋数の最終的予約ができる仕組みになっている。また、Registration Chairman は advanced registration を集計してバッジの作製や記録にあてる。Arrangement Chairman はこの間、Session Chairman より集めた資料により、projector や screen の準備にあたり、Paper Prize Chairman はすべての speaker にアンケートを送って統計的資料を集めたり、Session Chairman によって論文の質、Group Chairman によって発表方法の良否について採点するよう指示し、最終的に最優

秀の論文を選定し、次年度の conference にて prize award をなす。申しおくれたが、Treasurer はもちろん会計を、Conference Coordinator は共催学会の勧誘にあたり、また Local Publicity Chairman は TV, ラジオ, 地方新聞などを通じての宣伝に、Arrangement Co-Chairman は Ladies Program のスケジュール作製にあたる。

Conference の前夜は今年度と次年度の officer の親睦会や、次年度の予算編成の meeting が開かれる。Conference の開会は型のごとく共催学会の会長や地方名士の開会の辞で始まり、次に 1971 SCSC の場合は、ペンシルベニア大学、Wharton School of Finance の Adams 教授による “Forecasting and Simulation of United States Economy Outlook” と称して、econometrics についての keynote speech が行なわれて、そののち、6つの session が並行して開始される。午後の session が終わったのち、カクテルパーティーの親睦会が催され、夕食後は Panel Discussion が 10 時ころまで続く。2日目、3日目と午前午後6つの session が並行し、夕方には Panel Discussion が行なわれるが、2日目の昼食には New York の Albert Einstein College of Medicine の Levin 教授が心理学に立脚し、Industrial Dynamics の方法論を用いて urban development や environmental protection に関して simulation をいかにか用いるべきかについてかたることになっている。

Conference 終了後は、Administrative, Group, Session Chairman, そして speaker などのすべてから conference の記録資料、いかにかそれぞれの役を果たしたか、また conference への感想などをあつめ、一冊の本とし、次年度の officer へ配布して運営指針の資料とする。下記の本は、Instrument Society of America の Director of Technical and Educational Services をしている Herbert S. Kindler によって書かれたものであるが、アメリカにおける conference の運営についてきわめてよく説明されている。

“Organizing the Technical Conference”, Herbert S. Kindler, Reinhold Publishing Co., New York, N. Y., Published in 1960

(昭和46年3月10日受付)